

米倉教公の週間為替市場見通し

2/8 日週号

ドル/円予想レンジ 116.00 - 118.50 円

『イエレン FRB 議長の議会証言に注目！』

■前週の市場動向

前週のドル/円はリスク回避の円買いが強まった。日銀のマイナス金利導入策決定で週初は一時円安基調強まるも、米1月ISM製造業景況指数が市場予想に届かずドル売りが強まり円安トレンドを打ち消した。翌日から米経済指標が軒並み予想を下回り、原油価格も下落基調となったことからドル売りが加速した。さらに、ダドリー米NY連銀総裁が、今後の米追加緩和利上げについて慎重な発言が伝わりドルが急落した。その後も米経済指標の悪化傾向が鮮明となったことで、1ドル=117円割れとなりドルの上値が更になくなった。注目されていた米1月雇用統計では、非農業雇用者数が市場予想を大きく下回る結果となった反面、失業率や平均時給が予想より強い結果となったことで一時116.29円まで下落したが、ドルが一転強まり117.42円まで上昇した。しかし、米国株が大幅に下落し米長期金利が低下したことで、116.80円台で終了した。

■今週の注目点：10-11日のイエレンFRB議長の議会証言内容に注目

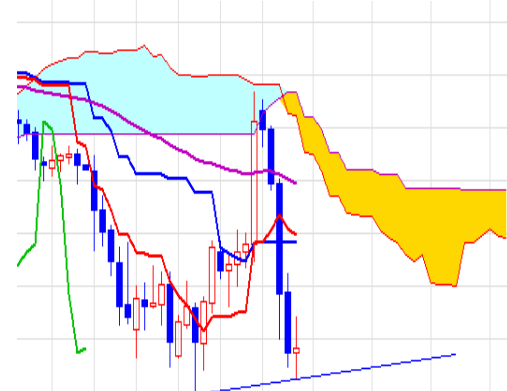
今週は春節（旧正月）で週を通じて中国市場が休場。香港市場が8-10日の3日間、シンガポール市場が8-9日の休場となり、日本市場も11日が休場となる。そのため、アジア市場では流動性が低下するが、中国を起因とする相場の波乱は抑制されそうだ。今週の注目点は、イエレンFRB議長の議会証言となる。昨今の市場混乱や世界景気減速に配慮し、3月の利上げの遅延や年内の利上げペースの減速が示唆されるようなハト派的な発言が出るとリスク回避の動きが一服する可能性がある。ただ、市場ではある程度利上げを織り込んでいる分、短期的にドル全面安には警戒が必要だ。しかし、利上げの鈍化はリスク回避を後退させ、米国の株高や原油高を支援することとなり、リスク選好の動きとなる余地も残る。

■テクニカル的な見解

2月2日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+50,026から+37,245へと円の買い持ちは減少したが、1月29日の日銀によるマイナス金利導入策による急速なドル高であったにも関わらず、減少量が少ないように思える。一旦はポジション整理があったものの、再び円買い・ドル売りポジションを1日・2日で膨らませた可能性もある。先ず下値では、米1月雇用統計後に付けた116.29円で切り返したこともあり意識される目安となる。下抜けしなければ、わずかに下値を切り上げたことになる。もし、週明けもリスク回避の動きとなると、20日安値115.96円、15年1月16日安値の115.83円、14年12月16日安値の115.55円が目途となる。上値では、1月13日以降もみ合った118.30円台や、1月29日の安値118.48円が上値の目途となりそうだ。

ドル/円：日足

終値：116.83円



わずかに下値切り上げ

★先週の気になる出来事

マイナス金利導入策のサプライズも先週全て吐き出した。官邸の危機ライン1万6800円近辺に戻った。この水準は、GPIFが官邸主導の14年10月公表の運用改革に沿って15年1-3月期の1万6800-2万円レンジで集中的に購入した価格帯である。1-3月期のGPIF運用収益が7月参院選前の6月下旬に公表されるので、7月の参院選でアベノミクスとGPIF改革は「失敗」との烙印を押されてしまう。このままの市場が続くなら、3月にもう一発サプライズがあるかも？

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。